

公共事業再評価調書（3回目再評価）

所管課： 河川課

| | | | | | | |
|---|---|--|-------------------------------------|-------------------|------------------------|-------|
| 1 事業概要 (整備目的) | 事業名： 石川川河川改修事業 | | 前再評価年度：平成19年度 | | | |
| | 事業種別： 総合流域防災事業 | 事業主体： 沖縄県 | (S. 51 ~ H. 24) | | | |
| | 事業箇所： うるま市 | 根拠法令： 河川法 | 事業期間： S. 51 ~ H. 28 | | | |
| | 総事業費(百万円)： (4,065) 4,364 | 費用内訳： 補助 9/10 | 事業量： (2.40km) 2.40km | | | |
| 1-2 前再評価以降の計画変更 | 河川整備計画の策定に伴う事業の見直しにより、河積確保のため、河床掘削及び自生するマングローブの必要最小限の伐木対策を追加したことによる事業費、事業期間の変更。 | | | | | |
| 2 再評価該当項目 | <input type="checkbox"/> ① 再評価後一定期間（5年）を経過 <input type="checkbox"/> ② 事業の中止 <input checked="" type="checkbox"/> ③ その他（平成22年度河川整備計画策定後一定期間（5年）を経過） | | | | | |
| 3 再評価に至った主な要因 (具体的理由) | <input type="checkbox"/> ① 用地取得の困難 <input type="checkbox"/> ② 調査・設計の困難 <input type="checkbox"/> ③ 事業の拡大 <input type="checkbox"/> ④ 予算の確保 <input type="checkbox"/> ⑤ 手続き・法令の問題 <input type="checkbox"/> ⑥ 他事業との関係 <input type="checkbox"/> ⑦ 整備効果の問題 <input checked="" type="checkbox"/> ⑧ 当初計画が長期間 <input checked="" type="checkbox"/> ⑨ その他（事業の見直し） 事業の見直しにより事業期間を延長した。 当初事業期間が長期間であるため。 | | | | | |
| 4 事業の進捗状況 (H27. 3時点) | 項目 | 事業費(百万円) | 整備(km) (護岸等) | 整備(km) (河床掘削等) | 用地取得(km ²) | 橋梁(基) |
| | 計画 | 4,364 | 2.40 | 1.85 | 41.60 | 8 |
| | 実施済 | 4,058 | 2.40 | 1.50 | 41.60 | 8 |
| | 率 | 93% | 100% | 81% | 100% | 100% |
| 4-2 前再評価以降の主な進捗 | ・河口部の石川橋の改築が完了した。 ・河積確保のため、河床掘削及びマングローブの伐木に着手した。 | | | | | |
| 5 事業効果の評価指標 (検討年50年) (基準年 H27) (単位: 百万円) | ① 一般資産 24,400 ② 農作物 371 ③ 公共土木施設等 41,330 ④ 間接被害額 2,098 便益(B) 68,199 ⑤ 残存価値 67 基準年換算(B) 54,435 | ① 建設費 4,364 ② 維持費 1,706 総費用 6,070 基準年換算(C) 13,302 | 費用便益比 (B/C) = 54,435 / 13,302 = 4.1 | | | |
| 6 事業を巡る状況の変化 (前再評価以降) | ①社会・経済：石川川の沿川で、石川西土地区画整理事業が進められており、流域内の市街地化が進んでいる。 ②地元・自治体：地元ボランティア団体による毎月の清掃活動や川遊びなどイベントの開催といった取り組みが行われている。 ③利害関係者：特になし。 | | | | | |
| 7 事業の必要性・効率性 | ① 事業の必要性・緊急性・有効性など： 河川の拡幅及び護岸整備は概成したが、河道内に自生するマングローブの繁茂等により河積が不足しており、浸水被害が発生しやすい状況にあることから、マングローブの伐木及び河床掘削により、河積の確保が必要である。 ② 事業の効率性： 用地取得率及び護岸等整備率が100%、河床掘削等整備率81%と事業は進捗しており、現計画を推進することが効率的である。 ③ 事業効果の発現状況： 護岸整備等の河川整備が概成しており、浸水被害が軽減された。 | | | | | |
| 8 今後の対応・見通し | ① 事業計画等：未整備となっている河床掘削を実施し、平成28年度で事業を完了する予定。 ② 対住民関係：特に問題なし。 ③ 執行体制等：現在の組織体制で特に問題なし。 | | | | | |
| 9 対応方針 | <input checked="" type="checkbox"/> ① 事業継続(現計画) <input type="checkbox"/> ② 事業継続(見直し) <input type="checkbox"/> ③ 事業の中止 | | | | | |
| 10 その他 (前再評価での主な意見等) | ・全てのマングローブを撤去し、両岸のコンクリートが目立つような雰囲気ではなく、近自然的な河川のあり方を関係者と相談しながら整備して貰いたい。 ・今後、大型スーパーの建設や区画整理事業が完了すれば、費用便益比はもっと高くなる。 | | | | | |

* 1事業概要の上段()は前再評価時点の計画